

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 268 号	2023年11月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—11月5日（日）天気も良く、会員14名で、イノシシによる被害のために、しがら組（木と竹で作った簡易土留め柵）が掘り起こされていますので、ため池と蓮田を竹で修復しました。散策道も掘り起こされている箇所を、真砂土を運搬し修復しました。サツマイモの残りを掘りました。ため池の橋の修復の準備をしました。固定は後日です。水路の落ち葉掃除と片づけた木や竹や草の焼却処分の作業を行いました。

—11月18日（土）親子自然観察隊は雨と風のために、芋焼きは中止しました。会員は18名参加され、来られた親子にはサツマイモを持って帰ってもらいました。その後、会員で今後の活動について話し合いしました。収穫祭（餅つき）の前準備（12月16日）は天候にもよりますので、晴れなら、外でテントを張りますが、雨なら二階の講堂で行います。年末懇親会は、例年通り東屋で焼き肉主体で行います。ため池の橋は、原田会長が完成されました。

2. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

- 11月26日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）
- 12月16日（土）収穫祭準備（洗米・会場づくり）
- 12月17日（日）収穫祭（餅つき）親子自然観察隊・二俣瀬子ども会・他招聘
- 12月17日（日）親子自然観察隊解散式
- 12月24日（日）維持活動・年末懇親会

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「ビオトープの敷地内で生物観察会」 （菅 哲郎 記）

11月22日（水）10:30～12:00まで二俣瀬小学校の生徒8名（3年、4年、6年生）が、ビオトープの敷地内に来られ、理科の先生を交え生物調査を行いました。毎年8月～10月ごろに行っていることですが、今年は11月という時期になり、昆虫などの生物が少ない時期になってしまいました。ビオトープで管理している昆虫の捕虫網と虫カゴを貸し出し、使っていただきました。二俣瀬小学校は地元でもあり、極力協力して差し上げています。学校側も、私たちビオトープの管理者側も、このようにフィールドを利用していただくことがありがたく、有意義なことだと思います。もう少し宇部市の学校側が、ビオトープのフィールドを利用してくれたらよいのですが、そこまではできないようで、行政がもう少し後押ししてくれないかとも思います。

5. 親子自然観察隊 「 里山の暮らし 」 （菅 哲郎 記）

「焼き芋」を楽しむ予定でしたが、昨日～昨夜からの雨と強風、それに朝の間にアラレが降り、午前8時の気温は2℃と真冬の気候でした。東屋では冷たい強風にさらされ、準備をしている間にも雨が降り始めましたので、急遽本日のイベントは中止といたしました。また、悪天候により21家族45名の内、半数の欠席がありました。10月に掘り取ったお芋は出席された隊員の家族と、お手伝いに来ていただいたビオトープの会員にも均等に分け持ち帰っていただきました。

イベントの始まる9時過ぎにはお天気もかなり回復しましたが、吹く風は冷たく、子供たちには耐えきれないような寒さでした。火を焚けば温まりますが、まず、地面が濡れていること、風が冷たいこと、強風により火の粉や火のついた紙や枝が飛ばされ、近くの枯葉に類焼する恐れがあり、危険なことを考慮し、天候の回復にもかかわらず、「焼き芋」のイベントをあきらめました。楽しみにされていた方々にはまことに申し訳なかったのですが、悪条件が重なりやむを得ず中止しましたこと、ご理解願います。

焚き付け用の木の枝や、薪、その他いろんな準備をしていただいたのですが、今回はすべて無駄になってしまいました、なにとぞご容赦願います。ご協力いただいた会員の方々には御礼申し上げます。

親子自然観察隊の感想 今回はありません。

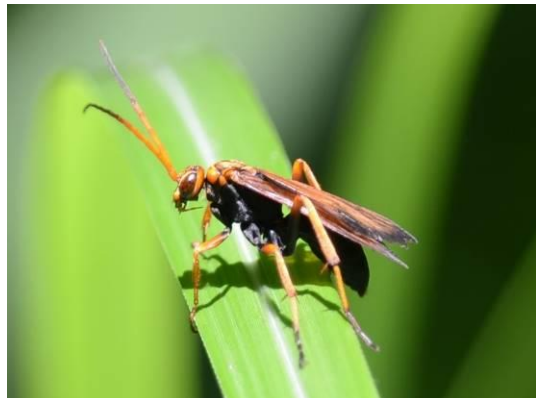
6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 菅 哲郎 記）

(93) ベッコウクモバチ *Cyphononyx fulvognathus* クモバチ科ムカシクモバチ亜科

名前の通りクモを狩るハチですが、種類は多く日本ではクモバチ科だけで37族134種が記録されています。さらにムカシクモバチ亜科は18属72種がおり、本種はその中の1種となります。大きさは雄雌で大きさが異なり、体色は黒、メスの体長15～27ミリ、オスの体長は13～17ミリとなっています。北海道以外の日本国内に生息しており、主にハシリグモやカマズグモを狩るとされています。そっくりさんにモンクモバチやキオビクモバチがおり、よく間違えてしまいます。



触角の先端部が黒色のベッコウクモバチ



ベッコウクモバチ



ベッコウクモバチにそっくり、狩りをするキオビクモバチ

*キオビクモバチは触角の先端部まで黄褐色、ベッコウクモバチの触角は先端部が黒いので判別ができます。

7. 会よりの連絡事項

- 1) 会報は来年の1月で270号になり、これで終了とします。そこでこれまでの活動や行事で何か述べたいという方は、メールまたは文書で頂ければ、最終号の会員の声として記載したいと思いますので、多くの方の寄稿をお願い致します。
- 2) 解散の時期も近づいてきており、解散式をどこで、いつ、どのようにするかなど多くの方の意見を頂きたいと思いますので、年末懇親会でいろいろと話し合いたいと思っておりますので、参加をお願いします。

8. 編集後記 (大野 靖子 記)

草刈りを市のお手配で別法人がしてくださるようになり、活動予定を知らせるメーリングリストにみんなで「エコアップ」の文字がみられるようになりました。そういえば、入会した当初はよく湿地帯に入り、外来種などを間引きしながら、「これはアサザ、デンジソウ…」などと教えて頂いたことを思い出します。田んぼの山側すぐ下の湿地では、はじめて「ヒシ」の実を足で見つけてさわりました。初めて見るものばかりで、わくわくしたことを覚えています。また今後もそのような季節季節を楽しめたらよいなと思います。